

製造業を営むA社長は、順調に発展し続けている他の企業を視察する度に、考えさせられることがありました。視察先の工場内や工作機械が綺麗に手入れされており、工具やドリル、ネジ等、頻繁に使用する道具の陳列も整っていて取り出しやすい工夫がなされているのです。工場内のすべての物に対して、愛情をかけて大切に扱っていることが伝わってきて、自社も見習いたいと考えていました。

そんなある日、取引先のB社を訪問すると、社員の一人が道具に足をかけたり、製品の上に腰を下ろしたりするなど、物を雑に扱っている光景を目にしたのです。A社長は、「最近、B社から納品された製品の多くが、以前と比べて雑な仕上がりになっている」と、工場長から報告を受けていたことを思い出しました。A社長は、B社の製品の現状を社員たちに伝え、この機会に物や仕事の流れなどについて社員の声を聞いてみようと思いました。

すると、あるベテラン社員から「現在使用している機械は、他社と比べて旧式で効率が悪いです。故障した時は、手で軽く叩いて起動させているほどです」と機械の老朽化についての不満の声が上がりました。他の社員からも「本当は完璧な製品を作りたいのですが……と真剣な眼差しで訴えてきたのです。

A社長は、〈経営の苦勞も知らずに、勝手なことばかり言うものだ〉と思いつつも、社員のやる気を感じ取り、社員の要求をすべて聞き入れて改善することを約束したのです。

新型の機械の購入を決定したA社長は、全社員と話し合い、搬入前に工場の隅々まで清



物は死蔵せずに 我が子のごとく慈しむ

掃することになりました。

倉庫内の在庫整理も併せて行なうと、製品を作り上げる切削工具の在庫が埃だらけで積み上げられていたのです。

A社長は以前、倫理法人会のセミナーで、「物はすべて生きています。生命をもっている。物を粗末にしたり、しまい込んでいると、良い製品が出来上がらない」という話を聞いたことを思い出しました。

倉庫内の機械や道具を徹底的に手入れして、長期間、在庫として積み上げられていた切削工具を使用して作業してみたところ、熟練の社員から「旧式型番のほう作業効率も上がり、製品も綺麗に仕上がった」と驚きの声が上がったそうです。完成した製品を取引先へ早めに納品すると、大変喜ばれ、取引の継続に繋がったのです。

その後、すべての保管場所を整理し、長期保存していた在庫を整理したところ、思いもよらない掘り出し物を数多く見つけ出し、再利用することができたのです。

商品が家に入る時は、家族の人が帰って来たように、またお嫁にでも来たように、よろこんでむかえます。そして倉庫に積んで置くときも、決してじゃまなく思ったり、やっかいがたりせず、大切に保管して宝物のように大切にいたします。

『サラリーマンと経営者の心得』丸山敏雄著
人や物を活かし、お客様の声に真摯に耳を傾けることは、仕事を進めていく上での基本です。お客様の望んでいることを真つすぐに受け止めて、職務に邁進したいものです。